

問 地元の農産物使用
についての生産者
の体制は。

教育課長

大木町健康づくり公社に登録されている10軒の農家に対し、翌月分の献立に基づき、生産者・大木町健康づくり公社・産業振興課の3者にて納入生産者及

び納入数量を決定し納入いただいたているが、予定数量の納入に不足が生じ不足分を地元納入業者より緊急に納入いただくなどの事態も生じている。

このため、献立に基づき安定的な納入ができる体制が必要と考えているので、他機関の協力も得ながらその体



道の駅周辺野菜栽培

制づくりに向けて検討していききたい。

問 健康福祉センター
(アクアス)を活用
した健康及び福祉の推
進について、健康福祉セ
ンター建設の目的は、町
民の健康福祉の拠点施
設である。

現在、国民健康保険の医療費の増加(年間1人当り35万円)による収支の悪化や後期高齢者(年間1人当り100万円超)さらには介護保険料についてもBランクになるような状況下において、町の財政負担も増加している。

病気になるないための予算措置や健康増進のための事業推進が急務である。アクアスを本来の目的のための施設とすべきであると思うが、町長としての考えは。

町長

アクアスでは、温泉プールを活用した健康づ

くり教室として、スマイルアクア、全身シェイプアップ、子ども水泳教室等を行っている。

しかし、保養やリハビリテーション、健康福祉棟と連携した多彩なプログラムの提供等、多機能施設としての役割を十分果たしていない状況である。

今後、アクアスの持続的な活性化を目指すには、建設当初の目的である「いつまでも健やかに生き生きと安心して暮らし続けたい」その願いをかなえる地域の核となる施設として、取り組みを進めなければならない。

問 本町においての道の駅(レストラン・農産物直売所)の収益事業の状況と今後の見通しは。

健康福祉課長

アクアスの入館者数は平成14年度の18万9650人をピークに平成21年度は17万7644人と減少傾向にある。

今年4月～8月までの入館者数を昨年同期と比較すると、3356人減の7万5483人となっている。

入館者数の減少については、特に今年は猛暑も影響しているのではないかと考える。入館者の増減が収益に大きく影響するので、営業収益も厳しくなると思われる。

問 アクアスの事業開始当初からのアクアスへの委託料の支払いは。また、町が受けた寄附の状況は。

健康福祉課長

アクアスへの管理運営委託料は、1500万円を平成12から平成14年までの3年間の各年度に支出し、合計で4500万円を支払っている。

また、アクアスから町への寄附は、平成13年度、14年度が各々1000万円、平成15年度200万円、平成17年度から平成19年度までが各々100万円、合計2500万円となっている。